

やる気のある人が取り組む 魅力ある農業に

知事 大変難しい質問を頂いて。農業に魅力を持たせ、後継者を増やす努力をしていくのはもちろんですが、長い目で見た大きな方向として、本当に農業をやっているという方向がある程度企業的な形でかなりの面積をカバーして下さる。一方で兼業という形において農業をそれなりに守っていくという分化した形に展開していくんでしようかね。その辺、宮本さんはまさに農業全体の指導者の立場から見られてどうですか。

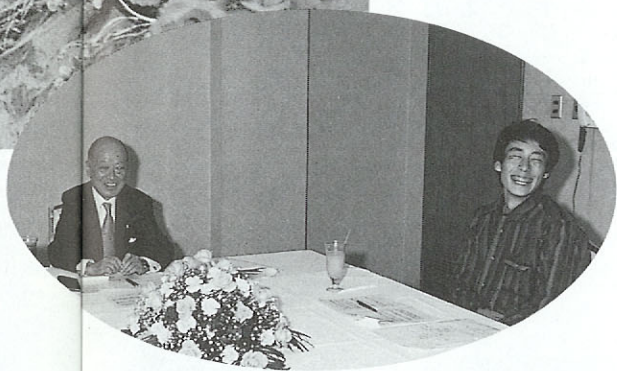
宮本 同じ見方ですね。後継者育成資金とか、嫁さんの仲立ちをしつらくらくとか、そういうのも結構ですが、本当に「やる気」という人に目を向けて頂きたいと思うんですね。

木之内 人材育成のことで、僕が非常に感じるのは、家族経営していると勉強に行く機会が非常に少ないし、また出られ

ない。生き物相手だから。ところが農業というものはいざやってみると非常に勉強しなきゃいけない。情報を入れなきゃいけない。それで、例えば一年休んで勉強に行ったりする際には何か保証のような形、企業なら研修や出向のような形で勉強できたりするわけですが、そのようなものが農業者にできないかと思っています。

宮本 今日、ここに持ってきたのは愛知県蒲郡の人のミカンですが、この人は六反半で七千万ですよ。「農業はいいですよ」と言うだけじゃなく、こういって良いモデルを作っているのかなきゃいかん。そして、本当にやる気がある人が帰ってくる形にせんとすね。

最後に、今後の抱負、夢を語って下さい。



「農業っていいな」と思われる 未来を目指して

宮本 女房と同じくらいミカンに惚れとりますので（笑い）愛情を注げば、必ずその答が返ってくると思って、ますますがんばりたいと思います。

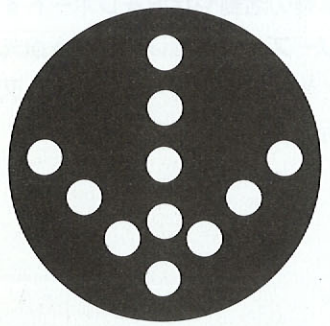
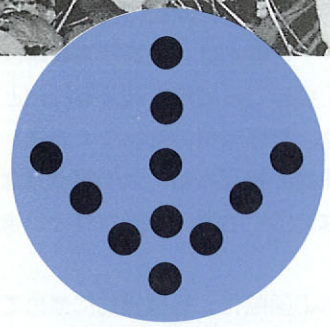
石原 主人を信じ、牛を信じてブランドづくりです。今、七割程度の中物を八割程度まで上げ、その中でも五割くらいは上物に持っていきたいですね。安定した肉質の向上に努めて「熊本の石原さんの牛はまちがわん。うまか」と言われるような石原牛。そして、次は菊水町のブランド品をつくるためにがんばっていきます。

木之内 あと十年が僕の勝負どころだと思っています。真剣に可能性を追求して、大規模化でも何でも取り組んでみたいと思っています。その中で一つ、阿蘇の特性を生かして、農業と観光とを結び付けられるような方向性を追求しようと思っています。消費者の人たちが

直接農場に来、実際に作っているのを見、収穫をし、楽しみ、皆が何か一端でいいから「農業っていいかな」と思ってくれるような農業を、自分なりに作ってみたいと思っています。

知事 皆さんが大変な苦勞をしながらも、楽しくて楽しくて仕方がないと語っておられるのを拝聴して本当にうれしく思いました。

先ほどもモデルが必要だというお話がありました。皆さんがそれぞれの分野における立派なモデルですから、これからはがんばって頂いて、熊本の農業のリーダーとしてひびいて、頂きたいと思っています。私どもも及ばずながら、熊本にとって大切な産業である農業が伸びていけるようにお手伝いさせて頂きたいと思っています。今日はありがとうございました。



福島知事

対談

「農業が好き」

生産者が、消費者が、育て楽しむ農業に